



平成 26 年 6 月 3 日

各 位

会 社 名 岡本硝子株式会社
代表者名 代表取締役社長 岡本 毅
(J A S D A Q ・ コード 7746)
問合せ先 執行役員 法務・コンプライアンス部長
井野 政之
電 話 04-7137-3113

海洋・特機事業部の新設に関するお知らせ

岡本硝子株式会社は、2014 年 6 月 1 日付で、以下のとおり海洋・特機事業部（英語表記：Special Equipment Division）を新設いたします。

- 組織名称： 海洋・特機事業部
- 事業責任者： 高橋 弘 事業部長
- 人数： 初年度は 10 名程度
- 事業内容： 海洋調査用機器類の開発・販売、高耐圧ガラス球の開発・販売
- 売上・利益： 未定

岡本硝子株式会社は、本事業部によって、江戸っ子 1 号プロジェクトで協力した会社と連携し、海洋調査用機器類の事業を開始いたします。その一方、高耐圧のガラス球の設計・販売も行います。

江戸っ子 1 号プロジェクトで岡本硝子株式会社の実証した水深 8,000m においても水圧に耐えられるガラス球は、800 気圧もの圧力に耐えることが出来ます。800 気圧の圧力とは、指一本の上に軽自動車 1 台分の重さがかかることに等しいものです。

ガラスはもともと耐圧という点では鋼よりも強いのですが、球形にすることで外部からの圧力が四方八方に均等に分散し、より強くなります。よって、ガラス球は深海で使う高耐圧のシェルに向いています。さらに、ガラスは球面・球形の加工が容易です。

既に、岡本硝子株式会社は、世界で最も深い水深 11,000m（マリアナ海溝）の水圧に耐えられるガラス球の開発にも取りかかっています。

ここ数年、環境・エネルギー問題が多く取り上げられる中で、官民共に海洋資源調査に積極的になっています。背景は、国土が狭く資源が少ない日本が工夫すべきことは、世界で第 6 位の領海・排他的経済水域（EEZ：資源の探査と開発に関する権利を得られる水域）を持っていることと日本が技術立国であることのシナジーと考えられます。日本の領海・排他的経済水域（EEZ）に、豊富なメタンハイドレードや鉱物資源の存在が確認されています。その他、ウナギの産卵生態の解明など水産資源の調査、地震予知の為に活断層モニタリング等、深海における海洋調査において重要な課題がいくつもあります。

政府は、5月23日に、総合科学イノベーション会議で、最先端の基礎研究を支援する戦略的イノベーション創造プログラム(S I P)の2014年度予算枠500億円のうち、310億円の配分を決める中で、その2割に近い60億円を海洋資源の調査研究に充てることとしています。

以上